

## 組織強化と部落解放をめざす決議（案）

ヘイトスピーチ解消法が施行されて6年になる。しかしながら、インターネット上の陰湿なヘイトスピーチはあとをたたず、特定されないように巧妙に言葉を選びつつ、外国人や障害者、部落民、沖縄の人々やアイヌなどの先住民等、マイノリティへの誹謗中傷は繰り返されている。ウトロ地区の放火事件などは、ネット上のヘイトスピーチが現実的なヘイトクライムへとエスカレートした事件だ。幸いにしてけが人はなかったが、焼け落ちた家では普段小学生が家で遊んでいる時間帯であり、一歩間違えば殺人ともなる犯行だ。貴重な資料も消失した。

社会や経済状況から孤立し、分断された個人が、SNS上の侮蔑的書き込みを信じ、同調し、はけ口を求める時代状況がある。しかし、そもそも人は一人では生きていけない。困って追い詰められたときは助けを求めているのだ。そうして繋がって、連帯し、運営していくのが私たちの「組織」の原点であり、この困難な時代だからこそ運動も組織も必要とされている。

地域でも、職場でも、「困ってないか」「つらいことはないか」と、おせっかいなほど声をかける世話役活動を展開しよう。今ある具体的な関係性を豊かなものにしていくために、工夫した取り組みを継続しよう。

水平社100年は一つの節目ではあり、社会的な注目も集まっている。中央本部や京都府連の記念集会も成功のうちに終わることができた。映画「破戒」では部落民として生きる明治時代の若者の苦悩が現代によみがえり、映画を鑑賞した人々がカミングアウトとアウトティングに揺れ動く感情を理解する一助となっている。また、京都府連では、書籍「京都の部落解放運動史—水平社創立100年」を刊行した。自分たちの地域や歴史を語り合うきっかけとして、友人、知人に書籍をすすめ、様々な立場の人たちと部落問題について語り合う機会をつくりだそう。

一人一人の同盟員が、今の自分より少しだけ積極性を身につけて、意識的に語り合うだけで、地域や社会が変わっていく可能性もある。

われわれが歩んできた道のりと、先人の思いを引き継ぎ、組織強化と部落解放をこれからもめざしていこう。

2022年8月9日

2022年部落解放同盟京都市協議会定期総会